

教頭として取り組んでいることと心得

乙部町立明和小学校 教頭 佐々木 朗

1 はじめに

現在教頭になって2校目で6年目を迎える。もう「何をやっていいのかわからない。」という時代は遠い昔となっている。(もちろん今でも悩みながら毎日やっているという状態はあるが。)

2校のいずれも複式校で、現在は、児童数13名、教職員5名(校長、教頭、教諭2名、養護教諭)のいわゆる3学級4定員であり、教頭も学級(1・2年生)を持っている。

このような職場環境で、教頭として校長の意を体して、どのような心得で学校運営を進めていくかを振り返ってみた。

2 仕事の流れを止めないこと

昨年まで、学級担任はなかったが、本年度は、3名の児童減となり、教員の定数が減り、教頭も学級を持つことになった。したがって、教頭の仕事は子どもたちが帰ってからとなる。年度当初の学校運営に関わる会議では、できるだけ全教職員で仕事の再分担をし、従前教頭がやっていた業務も職員で割り振りをしてもらった。しかし、事務職員の配置がないため、そちらの業務のいくつかもこなすことになり、やはり、やってくる仕事が多ければ、がんばり方を高めて仕事を処理していかなければならない。特に、ミスや仕事の未執行などは、即、学校の評価を落とすことにつながっていく。

そこで、私は今年、「仕事の流れを止めない。」ということを中心として仕事をしている。つまり、「その日に来た仕事はその日のうちに処理する。」ということである。一度後回しにすると、次から次へと、新しい仕事がやってきてしまうからである。

それでも、できない場合は、本来的ではないが、週末を使って処理するという現状もある。

どこの学校の教頭も、調査物の多さには苦労していると思うが、私は、できるだけその日のうちに回答を作成し、次の日の朝に、校長に決裁をもらい、すぐ発送するようにしている。また、校長から、意見を求められたこと、資料作成の指示を受けたことも、翌日までには、大筋をまとめて、校長にみてもらうようしている。

時には、夜が遅くなることがあるが、できるだけ週末の休養はしっかり取ることができるよう日々の業務を流れるようにこなしていくよう努力をしている。

3 地域に感謝する気持ちをもって仕事をする

「地域に根ざした学校をめざす。」というのは、私が教頭になってから、また、一般教諭時代からずっと自分の教育指針としてもっていたことである。特に、教頭になってからは、校長とともに、学校の顔として町の行事や地域行事に顔を出す機会も多くなった。

できるだけ、地域の行事には参加する、地域の商店で買い物をする、地域の草刈りをする、地域を散歩して(ちょうど我が家では犬を飼っている)住民とのふれあいを多くする、などを心がけている。また、学校に来た来客全てに、丁寧に対応していくことも心がけている。

また、本校の学校通信は地域全てに配布して学校の様子を伝えている。学校ホームページも、今年は多忙で更新がままならないが、学校の経営方針や子どもたちの様子を発信し

ている。

4 町の教育発展のために力を発揮すること

私の勤めている乙部町は、小学校が3校（単式校1校、複式校2校）、中学校が1校である。教頭は4人である。学校数が少ないことから、町の教育も比較的小回りが利く状況にある。

私は昨年、乙部町学習・生活習慣向上プロジェクトの副委員長を受け、教育委員会やプロジェクトの先生方及び保護者らと、協力してプロジェクトを推進してきた。その中で、学習のてびき作成やアンケートの作成・集約・まとめ、PTA研究大会での発表などリーダーシップを執りながら事業をすすめることができた。

自校の学校運営を大切にしながら、町の教育発展のために努力することも大切にしていきたい。

5 自分の専門性を生かしていくこと

私の専門は、情報教育である。大学時代からコンピュータに触れているのでキャリアとしては30年を越えることにある。早いものである。教頭として忙しい中ではあるが、自分の専門性を生かしての発信は常にしていきたいと考えている。

ここ2000年あたりから問題になりつつある情報モラルについては、檜山情報教育研究会の事務局長として、管内に啓発紙を発行したり、管内の中学校で講演を行ったりしてきた。

また、校務の効率を上げるための、校内の無線ネットワーク化、校内文書のPDF化なども行ってきた。さらに、ここ数年は、エクセルのマクロを活用した、教材作成にも時間を見つけて取り組み、町内の学校出も活用してもらっている。

町内の陸上競技大会では、昨年から改善しつつある陸上競技大会用ソフトウェアを開発し、プログラムの作成から、順位判定、入賞者一覧作成、賞状作成までをボタン一つでできるシステムを作った。それまで手書きで記録していたものをVBAを使って自動計算をさせた。まだ、荒削りなソフトであるが、さらに改善を進め完成度を上げると共に、誰でも使えるソフトウェアにしていきたい。

時には、「学校のネットワークがおかしいから見てほしい。」とか「二階の教室でインターネットを使えるようにしたい。」などという相談も来るが、そういう頼みも大切にしながら、檜山管内でのコンピュータ利用の第一線者と認めてもらえるよう自分の専門性はいつでも磨いておきたい。

6 最後に

教頭は、学校の中で一番忙しい職種であることは間違いなさそうだ。さらに学級担任もしながらは、相当忙しいのは現実である。そういう中でも、教頭には、あらゆる企画について、自分でプランを考え、中心になって仕切り、進めることができる醍醐味や楽しみ、そしてうまくいったときの充実感もある。それが教頭のやりがいでもある。次の世代の若い先生を引き込みつつ、企画力や行動力、調整力を育てていくことも、大切にしながら、職員室の担任として、これからもがんばっていきたい。